

きた みょう ほう じ ちょう
北 妙 法 寺 町

農神祭 「ノガミさん」

江戸時代前期に当たる寛文―元禄年間（一六六一―）には、同じ「妙法寺」を名乗る二つの村が現榎原地域の南と北にありました。

このうち南の村が明治一三年に村名改称願を提出し翌年に許可され「南妙法寺村」がまず生まれ、続いて明治一七年の行政区画整理に伴い北の村が「北妙法寺村」となります。この北妙法寺村が明治二二年の町村合併で真菅村の大字になったあと、昭和三年の榎原市発足で「榎原市北妙法寺町」になっています。

同町に残るお祭りが農業の神様をまつる有名な「ノガミさん」です。毎年一月七日午後には町の子どもたちが集会所に集まり、農具や牛などの絵を半紙に描きます。この絵を町の大人たちが、ワラで作った蛇の頭に差し込み担いで練り歩き町境の大木につり下げます。近年、牛を知らない子どもが多くなり、代わりに耕運機を描くとか――時代の移り変わりを思わせる祭り風景です。

また、同町の南寄りに春日神社が鎮座しています。神社境内に根回り約五メートルで樹齡三〇〇年を超える棕（むく）の大木があり、こんもりとした茂みが同神社と地域一帯の古い歴史を物語っています。